誰でもわかる　がん講座・108　肺がんと気管支鏡検査

気管支鏡検査をご存じでしょうか。「胃カメラ」にはなじみがあると思いますが、「肺/気管支カメラ」はあまり知られていないと思います。気管支鏡検査とは肺や気管支の病気を診断するための内視鏡検査のことで、私たちが肺がんを疑った時や両肺に異常な影が出ている患者さんを診た時にまず行う検査です。昔は肺がんと診断することだけが目的でしたが、現在は進行肺がんであった場合、がん細胞の顔つきを調べることで患者さん1人ひとりに対して最適な治療法が分かる時代になっています。より多くの肺組織を採取すべきと言われていますが、検査が長時間に及ぶと患者さんの苦痛につながってしまうため、できるだけ短時間で効率良く検査を行う必要があります。実際の気管支鏡検査中はもちろんですが、検査前の準備としてX線画像を参考にどの気管支が一番病変に近いのかを考え、かつ、どのような手技を行っていくのがベストなのかということについて、毎回検討しています。私たちの手技次第で最適な薬剤を患者さんに届けられるかどうか決まるため、冷静さの中にも情熱をもって気管支鏡検査に日々取り組んでいます。

呼吸器内科　医長　田地　広明